

# 海のまぼろし

小川未明

青空文庫



浜辺に立つて、沖の方を見ながら、いつも口笛を吹いている若者がありました。風は、その音を消し、青い、青い、ガラスのような空には、白いかもめが飛んでいました。ここに、また二人の娘があつて、一人の娘は、内気で思ったことも、口に出していわず、悲しいときも、目にいっぱい涙をためて、うつむいているというふうであります。心で慕つていた若者のいうことは、なんでもきいたのであります。

「その指にはめている、指輪をくれない？」と、あるとき、若者がいいました。彼女は、ほんとうに、若者が、自分を愛しているので、そういつたのだろうと思つて、指にはめている指輪をぬいてやりました。それは、死んだお母さんからもらつた、だいじにしていたものです。

その後のこと、あるうららかな日でした。

「こんど、遠い船出をして、帰つてきたら、結婚をしようと思つてゐるが、だれか、約束をしてくれる女はないだろうか。」と、若者がいいました。彼女は、もとより驚きました。そして、恥ずかしさのために、ほおを赤くして、うつむいていたのであります。彼女にくらべて、友だちの娘は、平常、はすっぱといわれるほどの、快活の性

質つでありますから、これをきくと、すぐに、  
 「私が、お約束をいたします。勇ましい、遠い船出から、あなたのお帰りなさる日を、  
 氏神にご無事を祈つて、お待ちしています。」といいました。

こう女にいわれて、喜ばぬ男はなかつたであります。若者は、大きいにはしゃいで、  
 このあいだもらつて、秘蔵していた指輪を、その娘に与え、指にはめてやりました。そば  
 でこれを見たときは、いかに、おとなしい娘でも、さすがにそこにいたたまらず、胸を裂き  
 かれるような気持ちがしたのです。

遠い水平線は、黒く、黒く、うねりうねつて、見られました。空を血潮のように染め  
 て、赤い夕日は、幾たびか、波の間に沈んだけれど、若者の船は、もどつてきませんで  
 した。はすつぱの娘は、はじめのうちこそ、その帰りを待つたけれど、生死がわからなく  
 なると、はやくも、あきらめてしましました。なぜなら、秋から、冬にかけて、すさまじ  
 い風が吹きつのつて、沖が暴れ狂つたからでした。彼女は、いつしか、他の青年を恋  
 するようになりました。

「その指輪は、だれからもらつたのか。」と、その青年は、問うたのであります。いつ  
 か、約束にもらつた指輪は、いまはかえつて、邪魔となつたのでした。彼女は、顔を

赤くして、指輪をぬくと、海の中へ投げてしまいました。

「これで、いいのですか。」

かれらは朗らかに笑いました。内気の娘は、その後も、浜辺にきて、じつと沖の方をながめて、いまだに帰つてこない、若者の身の上を案じていました。しかし、何人も、彼女の苦しい胸のうちを知るものがなかつたのです。北国の三月は、まだ雪や、あられが降つて、雲行きが険しかつたのであります。あわれな娘の兄は、こうした寒い日にも、生活のために、沖へ出て漁をしていました。ちらちらと、横なぐりに、雪は、波の上に落ちると、たちまち消えてしましました。ふとそのとき、水の底に、茫として、怪しい影のようなものが見えたのであります。

「なんだろう？」と、彼が、瞳をこらすと、破れた帆を傾けて、一そうの、難破船が、水の中を走つていたのです。

「あ、船幽霊だ！」と、叫ぶと、ぎよつとしました。

「なんだか、氣味が悪いし、もう引き上げよう。」といつて、わざか二、三びきしか釣れなかつたたらをかごにいれて、兄は、家へもどつてきました。たらの色は、黒々として、大きな目玉が光つていました。娘は、その一びきを晩のさ

かなにしようと庖丁ほうちょうをいれました。魚の肉は、雪よりも白く、冷たかつたのです。そして、腹を割はらわると、真まつ赤あかな、桃のつぼみが出たと思おもいました。

「どこで、桃のつぼみを、のんだのだろう。」といつて、娘むすめは、「あ！」と、目をみはつたまま、ふるえ出だしたのでした。それは、つたと思おもつていた、お母かあさんの形見かたみの指輪ゆびわであります。

つまみ上げてから、「まえいきゅう」久くになくしてしま

## 青空文庫情報

底本：「定本小川未明童話全集 10」講談社

1977（昭和52）年8月10日第1刷発行

1983（昭和58）年1月19日第6刷発行

※表題は底本では、「海《うみ》のまぼろし」となっています。

入力：特定非営利活動法人はるかぜ

校正：仙酔ゑびす

2012年2月19日作成

青空文庫作成ファイル：

このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫 (<http://www.aozora.gr.jp/>) で作られました。入力、校正、制作にあたつたのは、ボランティアの皆さんです。

# 海のまぼろし

## 小川未明

2020年 7月18日 初版

### 奥付

発行 青空文庫

URL <http://www.aozora.gr.jp/>

E-Mail [info@aozora.gr.jp](mailto:info@aozora.gr.jp)

作成 青空ヘルパー 赤鬼@BFSU

URL <http://aozora.xisang.top/>

BiliBili <https://space.bilibili.com/10060483>

Special Thanks

青空文庫 威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー <http://aohelp.club/>  
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。  
<http://tokimi.sylphid.jp/>